

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 神学部の理念・目的の中で表されていたアドミッション・ポリシーを明文化する。	→アドミッション・ポリシーの明文化(2012年度入試実施までに)	C	B			
2. アドミッション・ポリシーに基づいて、個別入試制度(一般、AO、推薦入学など)で募集する入学者像を明確にする。	→個別入試制度で期待する入学者像の明示(2012年度入試実施までに)	C	C			
3. アドミッション・ポリシーに照らして入学者選抜を検証する制度を構築する。	→既存の入試検討委員会(学部)における検証および教授会に対する報告書の作成(2012年度入試より)	C	C			
4. ことにAO入試においては、2004年度(2003年度実施)の入試制度導入から10年を迎える2013年度に向けて、これまでの検証とその選抜方法の再考を行う。	→AO入試実行小委員会および既存の入試検討委員会における検証および教授会に対する報告書の作成(2013年度までに)	C	C			
5. 学内ジョイント・ディグリー制度を利用した4年次編入学生の受け入れを実施する。	→神学部内規の改正施行および関連規定の整備状況(2013年度までに)	C	B			
6. 入学前教育のさらなる充実を図る。	→入学前教育の実施状況および入試検討委員会(学部)での恒常的な検証体制の整備状況(2011年度入試より)	C	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目5.0.1	<p>5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。</p> <p>(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない</p> <p>(明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない</p> <p>(受け入れ方針) 神学部では、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などについて専門領域ならびに学際的領域での学びを深め、その精神に基づいて社会に奉仕できる人材を育成することを目標としている。加えて高等学校までの基礎的な学習を土台にして、ボランティアや課外活動、あるいは社会人としての経験などから培った多様な能力をもつ者を幅広く受け入れている。そのため、必ずしもすべてを満たさねばならないわけではないが、以下の項目を募集方針の要素としている。</p> <p>神学部に入學を許可される者は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キリスト教の生み出した思想、文化的財などの学際的な領域に興味をもっている</li> <li>2. キリスト教について幅広く関心をもっている</li> <li>3. 世界の歴史や日本の歴史について知識がある</li> <li>4. 日本語、英語について一定水準の能力がある</li> <li>5. 「倫理」あるいは「数学」あるいは「地理」について知識がある</li> </ol> <p>キリスト教伝道者コースに入學を許可される者は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 将来クリスチャンワーカーを含めた伝道者となる意志をもっている</li> <li>7. バプテスマ（洗礼）を受けた者である</li> <li>8. 聖書、キリスト教について一定量の知識がある</li> <li>9. 聖書、キリスト教について調べることができる</li> </ol> <p>(説明) ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの策定を受けて、改めてそれらに沿った求める入学者像を検討し、上記のとおり明示した。</p>																				
小項目5.0.2	<p>5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。</p> <p>(説明) ことにAO入試について、募集方針に照らして適切な実施時期の再検討を入試検討委員会（学部）において行った。また、選考に用いる提出書類あるいはその採点方法（配点など）についても継続的に検討を行っている。一般入試については、受験生への予告時期を含めた2013年度（2012年度実施）から、一部改編することを決定している。</p>																				
小項目5.0.3	<p>5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p>(説明) 2008年度から2010年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、以下のとおりであり、問題なく推移しているといえる。しかしながら、他学部に比して定員が小さいため、管理については引き続き注意を払う必要もあると認識している。</p> <table border="1" data-bbox="338 1270 1008 1424"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>定員数</th> <th>在籍者数</th> <th>在籍学生数比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008年度</td> <td>120名</td> <td>131名</td> <td>1.09</td> </tr> <tr> <td>2009年度</td> <td>120名</td> <td>140名</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>2010年度</td> <td>120名</td> <td>136名</td> <td>1.13</td> </tr> <tr> <td>2011年度</td> <td>120名</td> <td>132名</td> <td>1.10</td> </tr> </tbody> </table>	年度	定員数	在籍者数	在籍学生数比率	2008年度	120名	131名	1.09	2009年度	120名	140名	1.17	2010年度	120名	136名	1.13	2011年度	120名	132名	1.10
年度	定員数	在籍者数	在籍学生数比率																		
2008年度	120名	131名	1.09																		
2009年度	120名	140名	1.17																		
2010年度	120名	136名	1.13																		
2011年度	120名	132名	1.10																		
小項目5.0.4	<p>5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</p> <p>(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない</p> <p>(説明) 検討の仕組みについては、入試検討委員会（学部）において継続的に懇談している。なお、学部全体のアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を策定し、求める入学者像をより明確にした。個別入試制度（一般、AO、推薦入学など）で期待する入学者像について明示が遅れてはいるが、全体のアドミッション・ポリシー策定を受けて検討を開始したいと考えている。</p>																				
その他	<p>多様な学生の受け入れを意図して、学内ジョイント・ディグリー制度を利用した4年次編入学生の募集開始を決定した（2014年度入学より）。また、その仕組みをつくるために、土台となる複数分野専攻制（MDS）プログラムについて科目編成の見直しを行い、2011年度より実施している。</p> <p>AO入試、スポーツ選抜入試、推薦入学による入学予定者を対象に、大学での学びにおける準備として入学前学習を実施している（英語、読書についての課題を中心に）。また、事前課題などを材料としてスクーリング形式によるプレステューデント・プログラムを実施（2011年2月）。授業体験などを通じて、新しい学習環境へ馴染むための契機としている。加えてスポーツ選抜入試合格者へは、学業とスポーツの両立を目指す入学前オリエンテーションも全学規模で実施している。</p> <p>広報の一環として、年二回の割合で、全国各地の教会を会場とした公開講演会の開催を決定している（2011年度より）。本学および本学部への理解を深めていただく場となることを期待している。直接的ではないが入学生の募集にも寄与するものと考えられる。</p>																				

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学部】		単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	入学定員	名	30	30	30	30	30	
指標2	志願者総数	人	165	367	209	348	206	
指標3	合格者数	人	79	73	67	62	81	
指標4	入学者数	人	35	30	36	25	27	
指標5	志願者倍率	倍	5.5	12.2	7.0	11.6	6.9	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍	1.02	1.03	1.06	1.03	1.01	入学者数÷入学定員 (小数点第二位以下切捨)
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	62.9%	56.7%	72.2%	56.0%	63.0%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	120	120	120	120	120	
指標9	在籍学生数	人	135	131	140	136	132	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	112.5%	109.2%	116.7%	113.3%	110.0%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	人	(4)	(4)	(5)	(6)	(6)	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	—	—	—	—	—	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	—	—	—	—	—	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	人	6	5	2	0		

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入

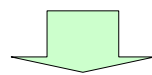
(その他の指標データ)  
 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】  
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合  
 科目等履修者の入学者数  
 聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 志願者倍率、収容定員に対する在籍学生数比率、一般入試入学者比率は過去2年間、安定して推移しています。
- ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの策定を受けたアドミッション・ポリシーの明確化が期待されます。
- 編入者数は学生定員に比して、一定数をコンスタントに受け入れています。

【学内委員】

- アドミッションポリシーの制定については、他学部在先駆けた積極的な取り組みが評価できます。小項目5.0.4の現状説明に述べられている、「個別入試制度における、期待する入学者像の明示の遅れ」については、小項目5.0.1の問題だと思われます。また、これについては具体的改善方策の提示が望まれます。
- 小項目5.0.2の現状説明で、2013年度入試からの具体的な改編内容(関学独自日程における英語・小論文型の廃止)については記述を避けたほうが良いと思われます。
- 小項目5.0.4の現状説明では、学生募集および入学者選抜の具体的な検証方法とその結果についても説明をお願いします。
- 目標であったアドミッション・ポリシーの明文化を実現されました。しかしながら、進捗評価が「B」です。「B」の理由が不明です。小項目5.0.4で記述されている、個別入試におけるアドミッション・ポリシーの明文化ができていないためでしょうか。もしそうであるならば、目標もしくは指標を再考する必要があります。
- 小項目5.0.2については、現状においての学生募集方法、入学者選抜方法はどのように行っており、それが適正であるかどうか、透明性を確保する措置はどのように行っており、それが適正であるかどうか、などについて聞いていただくと考えられます。この視点で記述を再検討してください。なお、現在の記述内容は、改善すべき事項で示されるのが適切ではないでしょうか。
- 小項目5.0.3については要素や指標データなどを参考にされ、もう少し現状説明が欲しいところです。
- 現状説明のその他で記述されているように、各種施策に取り組まれています。今後も継続した努力に期待します。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

- ・検証は、受け入れ方針に沿った学生を確保できたかどうか、という検証でもあります。なかなか測定は困難で短期で出来るものでもありませんが、測定方法を確立され、長期的、計画的な検証を期待します。
- ・編入学試験において募集人員を「若干名」としている場合、定員充足しているにも関わらず多くの学生を受け入れている場合は助言の対象となる可能性がありますので注意してください。

## 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

## ○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

## ○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

## ○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」

## ※【定員超過の場合の提言指針】

《実験・実習を伴う分野(心理学、社会福祉学に関する分野を含む)》

1.20以上：努力課題

1.25以上：改善勧告

《医学・歯学》

1.00以上：努力課題

1.05以上：改善勧告

《上記以外の分野》

1.25以上：努力課題

1.30以上：改善勧告

《未完成学部》

いわゆる「届出設置」の場合は、前身となる学科等の状況を勘案するなど、条件に応じて判断する。

## ※【定員未充足の場合の提言指針】

《全て》

0.9未満：努力課題

0.8未満：改善勧告

《未完成学部》

定員超過の場合の提言指針に準じる。

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

## ※【定員超過の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる

（なお、定員の超過が留年者数の増加によるものである場合は、その事情を考慮する）

## ※【定員未充足の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる。

## ○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

## ※【定員超過の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

1.30以上：努力課題

《未完成学部》

1.30以上：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

## ※【定員未充足の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

0.7未満：努力課題

《未完成学部》

0.7未満：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

## ○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

## ○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目5.0.2 ことにAO入試の現状説明について、募集方針に照らして適切な実施時期の再検討を入試検討委員会（学部）において行った。また、選考の評価対象である提出書類・小論文・面接の内容、結果を全て点数化しており、その配点の適切性について継続的に検討を行っている。一般入試については、受験生への予告時期を含めた2013年度（2012年度実施）から、一部改編することを決定しており、入試関係の媒体を用いて公表している。

小項目5.0.3における現状説明について、2008年度から2011年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、以下のとおりである。在籍学生数比率は、2008年以降平均して1.12を維持しており、定員超過・定員割れに関する文部科学省方針の観点からも問題なく推移していると言える。しかしながら、他学部に比して定員が小さいため、管理については引き続き注意を払う必要もあると認識している。

年度	定員数	在籍者数	在籍学生数比率
2008年度	120名	131名	1.09
2009年度	120名	140名	1.17
2010年度	120名	136名	1.13
2011年度	120名	132名	1.10

小項目5.0.4における現状説明について、検討の仕組みについては、入試検討委員会（学部）において継続的に懇談している。なお、学部全体のアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を策定し、求める入学者像をより明確にした。個別入試制度（一般、AO、推薦入学など）で期待する入学者像について明示が遅れてはいるが、全体のアドミッション・ポリシー策定を受けて検討を来年度以降開始したいと考えている。アドミッション・ポリシー明文化を受けて、各年ごとに入学者の全体的評価がアドミッション・ポリシーにあげた入学者像を反映するものかを精査する。

2009年度設定目標1（アドミッション・ポリシーの明文化）における進捗評価「B」について、個別入試制度における期待する入学者像の明示を待って改めて、全体のポリシーも再検証されるべきであるので、現段階では「C」から「B」への評価に留めている。